

別表1-C 平成23年度 特定共同研究(C) 課題一覧表

| 課題番号<br>プロジェクト名 (研究開始)   | ○代表者及び<br>・地震研担当者名           | 研究内容と参加条件   |
|--|------------------------------|---|
| 2010-C-01<br>防災研究フォーラムによる地震火山研究の推進   | ○森田裕一<br>(地震研究所)<br>・森田裕一    | 東大地震研究所・京大防災研究所・防災科学技術研究所の3者の合意の下に設立した防災研究フォーラムでは、自然災害を中心とした災害軽減・防御に関する共同研究プロジェクトの立案や、産官学連携の研究体制などについて検討を行っている。本課題は、上記の防災研究フォーラムの事業を全国共同利用の枠組みで実施するものである。具体的な内容は下記のとおり。<br>(1) 国内外の地震・火山・津波等の災害が発生した場合、現地へ専門家を先遣隊として派遣し、現地との折衝を迅速におこない、後続の防災研究チーム本隊に必要な情報提供・環境整備にあたる。<br>(2) 専門家のみならず、自治体等防災担当者を交えた防災研究についてのシンポジウムを共催する。<br><b>参加条件</b><br>上記(1)に参加するためには防災研究フォーラムにあらかじめ登録すること<br>( <a href="http://www.dprf.jp/membership/touroku.html">http://www.dprf.jp/membership/touroku.html</a> )。<br>申請は随時受け付けます |
| <p>「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等」<br/>                     首都圏で中感度地震観測網を構築して自然地震を観測し，このデータに基づいてプレート構造を推定し，制御震源等を用いた地殻構造探査の結果と合わせて首都圏で発生する大地震の震源域の地震学的構造を明らかにする。歴史地震等の記録の収集・整理・再評価を行い，首都圏で発生する大地震の発生時系列を明らかにする。さらに，首都圏で発生する地震の震源断層モデル・地下構造等のモデルを高度化して，南関東で発生するM7程度の地震をはじめとする首都直下地震の姿を明らかにし，首都直下地震の長期予測の精度向上や，高精度な強震動予測につなげることを目的とする。本サブプロジェクトは，4つのテーマに分かれている。</p> |                              |   |
| 2008-C-02<br>首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等<br>(1) 地震計を用いた自然地震観測によるプレート構造調査  | ○関口涉次<br>(防災科学技術研究所)<br>・平田直 | (1) 地震計を用いた自然地震観測によるプレート構造調査。首都圏に新たな中感度地震計を機動的に配置し，定常的な自然地震の稠密観測を行う。これにより，精度の高い震源分布や地震波速度・非弾性常数の三次元的な分布を明らかにする。また，プレート境界面の形状やプレート内における弱面の存在等を把握する。<br>参加条件：特になし   |
| 2008-C-03<br>首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等<br>(2) 制御震源を用いた地殻構造調査  | ○佐藤利典<br>(千葉大学)<br>・佐藤比呂志    | 首都圏において，制御震源を用いた反射法・屈折法地震探査等を行い，10km～15km程度の深さまでの地殻の速度構造や不連続面の形状等を把握する。制御震源のほかに自然地震も併用して詳細な地殻・上部マントル構造断面を明らかにする。地殻・上部マントル構造と地質学的な長時間地殻変動データから，地殻・スラブ内変形をモデル化する。<br>参加条件：特になし  |
| 2008-C-04<br>首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等<br>(3) 歴史地震等の記録の収集，整理及び再評価   | ○山中佳子<br>(名古屋大学)<br>・佐竹健治    | (3) 歴史地震等の記録の収集，整理及び再評価。歴史地震及び近代観測がなされて以降の地震について記録を収集，整理するとともに，プレート構造調査，地殻構造調査の成果等を踏まえた解析を行うことにより，これらの地震について再評価し，地震調査推進本部地震調査委員会が「その他の南関東の地震」としてまとめて評価を行ったM7程度の地震の震源域の位置(プレート境界型地震，スラブ内地震)，繰返しの有無等を推定する。<br>参加条件：特になし   |

| 課題番号<br>プロジェクト名 (研究開始)   | ○代表者及び<br>・地震研担当者名       | 研究内容と参加条件  |
|--|--------------------------|--|
| 2008-C-05<br>首都直下地震防災・減災特別プロジェクト：①首都圏周辺でのプレート構造調査，震源断層モデルの構築等<br>(4) 震源断層モデル等の構築 | ○竹中博士<br>(九州大学)<br>・額縁一起 | 「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト①首都圏でのプレート構造調査，震源断層モデル等の構築等」で実施される，「地震計を用いた自然地震観測におけるプレート構造調査」，「制御震源を用いた地殻構造探査」，「歴史地震等の記録の収集，整理及び再評価」，によって得られた結果やその他のデータ等を総合して，プレート境界地震，スラブ内地震のそれぞれについて，地震発生場所の絞込み，地殻やプレートを含む地下構造モデルの構築，さらには震源断層モデルの構築等を行う。首都圏に脅威をもたらす地震の解析，地下構造モデルの構築なども行って，長周期地震動予測地図や首都直下地震の強震動予測につなげる。また，震源断層モデルや強震動予測の高精度化のため，地震の破壊成長とスケールリング，スラブ内地震による強震動予測，高速な地震動予測手法などの研究を行う。<br>参加条件：特になし |